

令和7年度 幼児教育研修（年齢別担任研修 | 歳児・第1回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

～興味しんしん 何でもやってみたい を大切にする保育～

日時：令和7年5月27日（火）15:00～17:00

会場：足立区西新井文化ホール

講師：彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏



## 1歳児の発達

1,2歳児（1歳以上3歳未満児）の特徴

身の回りのことを自分でしようとする



食事、排泄などは個々の発達を十分に考慮する

他人への関心が高まる



子ども同士の関わりが徐々に育まれていく時期なので、友だちとの関わりを丁寧に伝えるなど仲立ちをする

行動範囲が拡大する



自分の体を思うように動かすことができるようになってくるので体を動かす機会を十分に確保する

象徴機能の発達

状況を説明する言葉などを補って、子どもに返していくことで、イメージや言葉が広がる

わんわん!



わんわん 大きいね!

自我が芽生える

子どもの気持ちを尊重し、期待を持って見守る



十分自己発揮することで、自己コントロールや切り替える力につながっていく

1,2歳児（1歳以上3歳未満児）の保育内容

- 子どもの中で流れる時間を汲み取る → 十分に、たっぷりと、ゆるやかに
- 「自分で」の実現を助ける → 主体性の発揮の芽生え
- 共感されたり、したりすることの積み重ね

## 保育とは・・・

保育所保育指針 第1章総則

1 保育所保育に関する基本原則

(1) 保育所の役割 より



保育とは、養護と教育の一体

安心して、育つことを助ける行為

「安心だね」と「やってみたい」の保障

養(保)護  
生命の保障

+

教育  
発達の援助

保育

保育所の目的 子どもの「健全な心身の発達を図ること」

目的を達成するための方法

専門性を有する職員が  
家庭との連携の下に  
子どもの状況や発達過程を踏まえ  
環境を通して養護及び教育を一体的に行う

## 環境を通して行う保育とは・・・

保育所保育指針 第1章総則

1 保育所保育に関する基本原則

(2) 保育の目標 より



保育所の保育

子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培うため～

ヒト(身近な人)

環境

モノ  
(周囲の様々な物)

コト(事象など)

様々なものと出会い、**直接的・具体的な体験**を通して保育が行われることが大切



**現在を最も良く生き**

「現在」が心地よく生き生きと幸せ

→ **子どもの願いが叶う**

**望ましい未来を作り出す力**

長期的な視野を持って「生涯にわたる生きる力の基礎」を培われるよう(保育者が)見通す

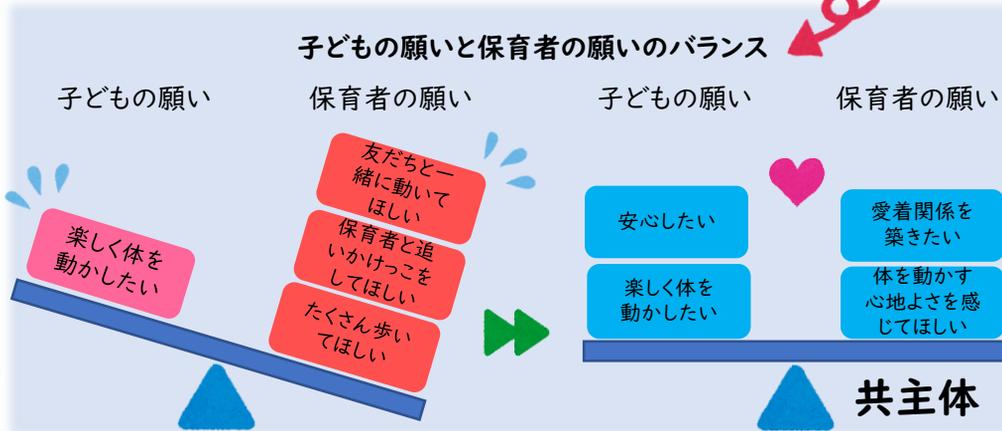
→ **保育者の願い(保育の意図)**

「保育」は子どもが主体であることを大事にしている子どもが伝えようとするのを聴こうとする態度が大切

言葉にならない言葉

表情

動作など



**養護と教育は一体的**

保育所保育指針 第1章総則  
2 養護に関する基本的事項  
(1) 養護の理念 より

健康や安全の保障

一人の主体としての尊重

保育所における養護

子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わり

生命の保持

養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育

情緒の安定

保育所における保育の特性

養護及び教育を一体的に行うこと

快適な環境

信頼できる身近な他者の存在

乳児は援助をする場面が多く、「教育」部分がないと思われがちだが、そうではない。どんなに小さくても、子どもは主体的な存在であり、常に学んでいる。

舐めて感触を知ろうとする



触ろうとする

手を伸ばす

教育は子どもが自ら行おうとする、やってみようとすることを支える行為

養護とは、日中の生活の場である「保育所」での安全と安心を一人一人に保障するということ



養護は育ちの基盤

**まとめ**

- 子どもの興味・関心を知ることが大事になる
- 子どもの興味・関心を理解し、その時の育ちの特徴を踏まえることで、育ちの方向性を考えていく。

子どもが育ち(たい方向)を支える



保育のねらいに繋げる

**研修生の報告書より**

- 自我が芽生え自己主張が強まっていく中で、何でもやってみたい気持ちを大切に、保育者が子どもたちの意図や気持ちを受け取り、保育の計画を進めることが大切だと改めて学んだ。
- 成長のチャンスとなる、自分でやりたいという気持ちに応えられるようにゆとりを持って活動に取り組めるようにする環境をつくり、先回りせずに、見守りたい。
- 今後の保育では、子ども一人ひとりの「やってみたい」「これが好き」という気持ちを尊重し、その子の育ちに合った環境や関わりを意識していきたい。子どもが主体的に活動できる工夫をしていきたい。